


(仮称)沖縄セルラー旭橋駅前ビルプロジェクト始動のお知らせ ～都心型データセンターを併設した ICT 活用スマートビルの建設～

沖縄セルラー電話株式会社(本社:沖縄県那覇市、代表取締役社長:湯浅 英雄、以下 沖縄セルラー)は、2018年4月に那覇市旭橋駅前に都心型データセンターを併設する ICT 活用スマートビル(賃貸オフィスビル)プロジェクトを始動することをお知らせします。

本計画「(仮称)沖縄セルラー旭橋駅前ビル」は、2020年5月竣工を予定しています。計画地は旧 KDDI 那覇ビル跡地、地上 12 階、延床面積 7,760 m² (2,347 坪)、構造は免震構造を採用し、都心型データセンターを併設した最新鋭の ICT スマートビルとなる予定です。

当ビルは、厳重なセキュリティに加え、24 時間 365 日の有人監視体制、高信頼のファシリティで、九州をはじめ首都圏及び近隣アジアなどのお客様のオフィスやバックアップサイトの拠点を目指します。

【計画概要】

項目	仕様	完成イメージ
名称	(仮称) 沖縄セルラー旭橋駅前ビル	 画：NIKKEN
竣工時期	2020年5月(予定)	
計画場所	沖縄県那覇市東町(旧 KDDI 那覇ビル跡地) 沖縄都市モノレール旭橋駅前	
敷地面積	1,051.4 m ² (318.05 坪)	
建物構造	免震構造、地上 12 階	
延床面積	約 7,760 m ² (2,347 坪) ※基準階床面積：579 m ² (175 坪)	
建物用途	1 階：エントランスホール、受付、駐車場：43 台 2 階～9 階：貸オフィス 10 階：データセンター	

基本設計・実施設計・監理：日建設計・国建共同企業体

※計画段階の内容であり今後変更となる可能性があります。

沖縄セルラーは、都心型データセンターを併設した最新鋭のスマートビルを、2020年5月に竣工し、沖縄の地域活性化及び総合通信事業の発展に貢献していきます。

詳細は別紙をご参照ください。

以上

1. (仮称)沖縄セルラー旭橋駅前ビルの特徴

(1)立地環境

本計画地は、沖縄県を代表する企業が立ち並ぶ国道 58 号線に面し、那覇空港、県庁や那覇市役所、モノレール旭橋駅にも至近であり、オフィスの立地としては最適であります。また、旭橋駅の東側には、大規模なバスターミナルや再開発ビルが 2018 年秋には竣工予定であり、商業地としてはさらなる発展が期待できます。

(2)建物デザイン

林立する大木のような構造柱がシンボリックでスマートな高層ビルを支え、沖縄の厳しい日差しから守られた、開放的なピロティ空間となる森（ムイ）の広場を創出します。森のような柱は、鉛直性を強調するデザインであり、アウトフレーム工法により無柱で整形な執務空間を提供します。

沖縄の鮮明な空を映す外装のガラスは、二重ガラススクリーン（ダブルスキン）工法とし、ダブルスキンの中間域を利用したライトシェルフや除湿のための温熱利用などの自然エネルギーの活用を行います。また、隣接するビルのプライバシー保護や交通量の多い国道 58 号線の騒音対策にも効果があり、快適な室内環境を提供します。

(3)自然エネルギーの活用

IoT の多様なニーズに合わせ、オフィス空間とデータセンター機能を合わせ持つこのビルには、最先端の省エネルギー手法を取り込んでいます。沖縄で重要な除湿は、省エネルギーなデシカント空調システムを導入し、除湿のエネルギーに日照により温められたダブルスキン内の空気を利用します。

また、施設中央にクールボイドを設け、ボイドを取り囲む耐震壁に外気温より低い井水を噴霧し、壁面の冷却効果により執務空間の熱負荷軽減を行います。ダブルスキン内に設置したライトシェルフは、居室天井に自然光を導き、執務空間の照明負荷軽減を行います。

(4) 安心・安全のファシリティ

建物は、震度 6 クラスの大規模地震が発生しても、安定運用できる免震構造を採用しています。また、異なる変電所からの 2 系統受電に加え、冗長化した無停電電源装置や非常発電機を 12 階に配置することにより、安定した電力供給が可能です。さらに、電気・通信設備、サーバーームの重要設備は、10 階以上に設置し、万が一の津波や台風での浸水のリスクもなく、継続運用が可能となっています。

(5)強固なセキュリティ

1 階のロビーから、各区画のセキュリティレベルに応じて、各種ゲート、生体認証、共連れ防止や監視カメラを設置し、万全のセキュリティ対策によりオフィスで働く皆さまやお客様の情報資産をお守りします。